

会派代表質問

持続的な発展と魅力ある
都市づくりの実現にむけて！

自 民

小金井 勉 議員



問 財政健全化に向けた取り組みについて質問させていただきます。

本市における財政状況は、ここ数年大変厳しい状態が続いており、また義務的経費、社会保障費が年々増加していく一方で本市にとって自主財源の確保は大変重要な課題であります。担当課においては、日々研究し、財政健全化に向けた内容を精査し、マネジメントの強化に取り組んでいることと思います。本市は令和3年2月に「財政健全化に向けた緊急的な取り組みについて」を策定されました。その中に歳入面における取り組みの一つとして、ふるさと納税の強化があります。そこで、ふるさと納税についていくつかお聞き致します。ふるさと納税の本来の趣旨は首都圏と地方の税収の格差を是正するとともに、ふるさととして地域の活性化を願う方が、自治体を応援することができるよう、直接その自治体に寄附するものであります。しかし昨今では、自治体間の寄附金獲得競争が激化し、寄附者にあっても、ふるさととしてなじみのある自治体ではなく、魅力ある返礼品を探して寄附を行うという状況に変わってしまっています。本市のふるさと納税額も年々増加し、本市にとって大きな財源になっていることは間違いありませんが、この制度がいつまで続くかわかりません。ふるさと納税に頼りっぱなしではなく、その先にある商品開発や商品価値の向上、産業の育成に取り組みが必要があるのではないかと考えます。生産者、事業者と行政が一緒になって開発や生産の仕組みの改善、向上に取り組みそれを地域資源として積極的にPRしていくべきであります。そこで、

現在どのような取り組みを行っているのか。効果はどの程度現れているのか。今後のビジョンと共にお願いします。

答 寄附受入れ額の増加を目指した本年4月からの取り組みとして、新たな事業者を支援するため機器の購入、パッケージ作成費用に補助金を交付する、ふるさと納税地場産品開発等支援事業の実施のほか、新たなふるさと納税ポータルサイトとしてふるさと納税の契約に向けた準備をしているところです。また、ふるさと納税電子感謝券の取り扱い加盟店の拡大、新型コロナウイルスの感染拡大により売り上げに影響を受けている生産者を支援する取り組みとして期間限定で新米を増量した返礼品を追加しました。今後も本市の魅力発信の強化と返礼品の充実を努め、寄附受け入れ額の維持、増加を目指して鋭意取り組んでまいります。

問 本市における企業版ふるさと納税の使途と先に実施したクラウドファンディングの結果と成果についてお伺いします。

答 令和3年度の企業版ふるさと納税の実績は、寄附の受入れ件数5件総額60万円を受け入れ、企業の意向を踏まえ、移住、定住の促進を図るため実施した魅力発信事業に充当しました。

執行部の担当課におかれましては、ふるさと納税において毎年、毎年、新しい展開をしていかなければならないと思いますので、大変ご苦労であると思いますがよろしくお願致します。

他に金谷川河川改修事業の進捗状況及び今後の市長の市政運営について質問いたしました。

関連質問

土屋 忠和 議員

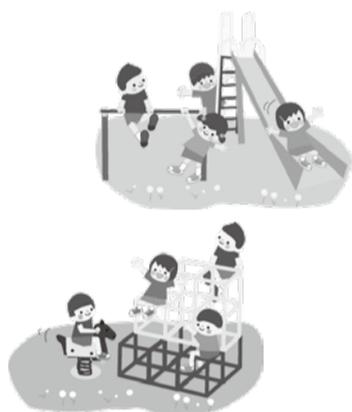


問 白里海岸地域には、白里海岸公園と称し、約5.8ヘクタール、19カ所の公園がございました。この3月に約2ヘクタールを国に返還し、残り約3.8ヘクタールの公園と減りました。それにより白里地区は、子供たちの遊ぶ場所や遊具の数が減っております。残った海岸公園の広場や多数の公園に対し遊具の設置計画は、あるのか伺います。

答 令和3年4月に公表しました白里海岸公園のあり方に基づき、一部の公園を国に返還したところでございます。公園のあり方では、白里海岸公園の内、遊具等の利用が見込まれる地区の中心となる公園を4公園に集約し、必要な施設を計画的に整備する事としております。海岸地域に適した材質や利用者のニーズに合った遊具の選定について、検討して参りたいと考えております。

問 日常の遊具の安全対策及び、対処について伺います。

答 公園遊具の安全対策につきましては、職員による日常的なパトロールをはじめ、月1回の点検、年1回の有資格者による定期点検を実施するなど、安全に利用していただけるよう努めているところでございます。私からの要望と致しまして、もう一度、地域ニーズを踏まえ、地域の年齢層や状況を把握して公園のあり方を考えていただきたいと思います。



関連質問

中野 修 議員



問 コロナワクチンの接種状況について伺います。これまでの接種状況についてお聞かせください。

答 1回目と2回目を合わせた初回接種、3回目となる追加接種及び現在実施している4回目の追加接種人数と摂取率について、8月31日現在の数値をもってお答えいたします。5歳以上を対象とした初回接種の接種人数は4万670人であり、接種率は84.9%でございます。次に、追加接種の接種人数は3万3212人、接種率は69.4%であります。年代別は、10代が33.3%、20代が52.5%、30代が56.4%、40代が63.3%、50代が76.4%、60代以上が87.2%であり、特に10代の接種率が低い状況でございます。現在実施している4回目となる追加接種につきましては、60歳以上の接種人数は1万730人であり、接種率は52.8%となります。

問 オミクロン株に対応したワクチンの追加接種について、市としてどのような計画で進めていくのか、接種の対象者、いつごろから接種できるようにするのか、お聞かせください。

答 接種対象者につきましては、初回接種を完了した12歳以上の全ての住民を対象に実施することを想定して、準備を進めることとされており、また、本市にいつどの程度供給されるかは示されていない状況でございます。今後、国の方針が明確に示されましたら、広報紙及びホームページ等を活用し、市民の皆様にお知らせしてまいりますとともに、関係機関と連携しながら情報共有を図り、適切に業務を遂行してまいります。

個人質問

市民の声を届け誰もが楽しく暮らせる
豊かなまちづくりの実現！

林 正清子 議員



問 増穂地区コミュニティバス、白里地区コミュニティバス(はまバス)それぞれの利用状況について概要をお聞かせください。

答 白里地区コミュニティバスは国庫補助金の申請要件を満たしていないとのことですが、満たされていない要件は何ですか。

答 増穂地区コミュニティバスは、1日8便運行し、本年4月から7月までの4か月の利用者総数は、8,341人であり、1便あたりの平均利用人数は8.5人で、利用者数は増加傾向です。

白里地区コミュニティバスは、1日5便運行し、本年4月から7月までの4か月の利用者総数は、864人であり、1便あたりの平均利用人数は2.1人で、利用者数は横ばいの状況です。令和4年度分の補助金は、道路運送法第4条許可による運行のほか、1便あたりの利用者数が2人以上であり、その他の要件を満たしていることから、補助対象となるものと考えております。

問 運行ルートの変更基準はどのようになっていますか。

答 コミュニティバスの運行ルートは、本市に広く存在していた交通不便地域を解消することを目的に、商業施設や病院、公共施設等を循環するルートとして、地域の方々のご要望やご意見を伺いながら、ルート設定を行っております。

運行ルートの変更は、包括的に協議を行う場があるわけではなく、地元区・自治会などの団体を通じてや市民アンケート、利用者アンケートなどにおける市民の皆さまの意見を幅広く収集し、運行事業者と協議の上、地域公共交通活性化協議会でご

議論いただいているところです。今後も、地域のニーズや運行ダイヤ等総合的に勘案し、利便性の向上に努めてまいりたいと考えております。

問 パブリックコメントの周知は、主に広報とホームページだと思えます。しかし、過去の情報を比較すると、かなり差異があります。パブリックコメント周知の基準について伺います。

答 案件ごとに、意見の募集期間や閲覧場所、意見の提出方法などをホームページに掲載するとともに、併せて、後日、寄せられた意見等の結果、並びにそれに対する市の考え方などを公表しているところがございますが、現状では、掲載開始や掲載終了の時期などのルールが明確に定められていません。

問 ホームページによるパブリックコメントの意見募集及び、結果についての掲載条件を伺います。

答 パブリックコメントについては、複数のルートからの閲覧を可能としておりますが、よりわかりやすく閲覧できるように、ホームページの改善に取り組みしてまいります。

パブリックコメントは、市民の声を聞く大事な手段であります。その周知方法には基準が必要です。広報やホームページに掲載されるべき情報も各課任せでは統一は、難しいでしょう。広報やホームページへの掲載基準の策定は、市長が中心となって進めて頂きたいと思っております。市長に領いて頂きました。ありがとうございます。

※ 他に、路線バス、公共交通空白地域、スクールバス、市有バスなどについて質問しました。